



# The Door Step to Japan

vol.42

2019年 春夏号

日本の扉  
浅草  
浅草・槐の会  
ASAKUSA

二〇一九年己亥		二〇一九年己亥	
一月 (睦月) 初詣 浅草名所七福神もろて	二月 (如月) 三日 節分の日 八日 針供養	三月 (弥生) 十八日 浅草観音示現会・金龍の舞	四月 (卯月) 八日 船導誕生日(花まつり) 白鷺の舞 二十四日 早慶しがッタ 二十四日 浅草流鏑馬
五月 (皐月) 五日 宝の舞 十七、十九日 三社祭 二十五、二十六日 お富士様の植木市	六月 (水無月) 二十九、三十日 お富士様の植木市	七月 (文月) 九、十日 四万六千日(ほおずき市) 二十七日 隅田川花火大会	八月 (葉月) 十五日 万霊燈籠供養会 三十一日 浅草サンバカーニバル
九月 (長月) 上旬 台東薪能 二十三日 彼岸会	十月 (神無月) 十八日 金龍の舞・菊供養	十一月 (霜月) 三日 白鷺の舞 八、二十日 西の市 十五日 七五三	十二月 (師走) 十七、十九日 歳の市(羽子板市) 三十一日 除夜の鐘(弁天山)



# 浅草を彩る3月~8月の代表的催事

5月

皐月

## 「びんざさら舞」

● 5月17日

浅草付近の宮戸川で示現された観音像は、現在の駒形橋付近から陸にあがられ、槐の木の切り株の上に安置されました。そのおり、草庵(藜堂(あかざどう))を作った十人の千束田圃の百姓衆が、草庵の完成を祝って踊ったのが「びんざさら」の始まりといわれています。三社祭奉納の「びんざさら舞」は、田楽舞(ささら舞)と獅子舞の二つの舞が備わっている全国でもめずらしいものです。



## 三社祭

● 5月17日~19日

浅草神社は、浅草寺観音像を浅草付近(宮戸川)から網得した漁師、檜前浜成(ひのくまはまなり)、竹成(たけなり)と、土地の識者、土師中知(はじのなかとも)の三人を祀るところから、古くは三社権現と称されていました。三社祭の名はここからきています。三社祭は神輿渡御が有名で、浅草神社の氏子町会四十四ヶ町の神輿勢揃いが土曜日の午後1時に浅草寺境内で行われ、浅草が祭り一色に染まります。



5月 三社祭  
写真協力：  
台東区写真連盟  
青山真平氏

6月

水無月

## お富士様の植木市

● 5月26日・27日、6月29日・30日

浅間神社(俗にお富士様)の縁日で、元禄の頃に富士山信仰から始まったものです。当初は、6月1日の山開きに合わせて5月晦日・6月1日の両日でしたが、明治以降山開きが7月1日になったことから6月晦日と7月1日も合わせた四日間のご縁日となり、近年になって5月と6月の最終土・日曜日に行われるようになりました。柳通りと神社を中心に約350軒の植木屋と200軒の売店が出ますが、この界限は花柳界と呼ばれる地域で浴衣姿の家族づれにまじって粋な芸者衆の姿を見かけることもあります。



7月

文月

## 四万六千日《ほおずき市》

● 7月9日・10日

下町の風物詩、夏の草市(植木市、朝顔市、ほおずき市)の一つで、この日に浅草寺にお参りすると特にご利益があるといわれる功德日でもあることから、境内は正月、三社祭に次ぐ人出となります。



## 隅田川花火大会

● 7月27日

享保年間に始まり、両国の川開きとして250年の伝統を保ってきた花火大会ですが、交通その他の事情により昭和36年を最後に中断しました。それが昭和53年に隅田川花火大会として復活。現在の会場は今戸付近と駒形橋-厩橋間との2会場で夏の夜空を彩る浅草の風物詩となっています。



7月 隅田川花火大会



4月 早慶レガッタ  
写真協力：  
台東区写真連盟  
田村和夫氏

8月

葉月

## 万霊灯籠供養会

● 8月15日

8月15日の「終戦記念日」に営まれるこの法会は、太平洋戦争で亡くなった戦災者供養のため行われ、現在は幅広くお盆の先祖供養のためにも営まれています。本堂内での法要後、本堂裏の境内地をかがり火で結界し、不動尊のご真言を唱える中、灯籠をお焚き上げします。

## 浅草サンバカーニバル

● 8月31日

本場のブラジル・リオから、その年の優勝チームを招待して熱狂の夜を過ごすのが、真夏の夜の夢、浅草サンバカーニバルです。お祭り好きで浅草を愛しリオ通であった故・伴淳三郎さんと前台東区長内山栄一氏が意気投合して企画したものです。浅草商店連合会の有志を中心に昭和56年8月29日に第1回浅草サンバカーニバルを成功させました。以後、毎年8月の最終土曜日に開催され、浅草の新しい息吹を示す祭典として定着しています。



8月 浅草サンバカーニバル

### 【そのほかの行事】

- ◆ 3月18日 浅草観音示現会・金龍の舞
- ◆ 3月20日~4月8日 隅田公園「桜まつり」
- ◆ 4月8日 白鷺の舞
- ◆ 4月20日 浅草流鏝馬
- ◆ 4月14日 早慶レガッタ
- ◆ 4月27日 泣き相撲
- ◆ 7月1日 浅草富士浅間神社「例大祭」(山開き)



## 第六回

「三社祭の歴史  
後編」

## 浅草寺子屋

講師  
荒井修

この記事は2010年に文化・芸術・観光のまちづくり協会が主催した「浅草寺子屋」の内容を再現したものです。講師を務めたのは我が槐の会のメンバーであった荒井修氏。浅草の老舗舞扇店「荒井文扇堂」の四代目店主です。この講演の6年後、2016年2月22日に逝去されました。浅草や江戸の文化に精通し、浅草の町興しのオピニオンリーダーでもあった氏の知見を後世に伝えていくために、小誌ではこの記事を企画しました。

時代によって神輿の  
陸揚げ場所も変化した

(前編は、江戸時代の三社祭では神輿が浅草神社から浅草見附まで渡御し、浅草見附で大森の漁師たちの船に乗って浅草神社方向へ戻っていったという話をし、) だけでもこの、船から神輿を陸に上げる場所なども、資料によって違うんです。この絵を見ると、舳先が浅草橋の方へ向かってるでしょ？(図1)

図1：浅草橋から神輿を陸に上げているところ。  
今回掲載する絵図はすべて「江戸名所図屏風」より抜粋



とすると浅草見附から陸に上がって担いでいくわけですね。一の宮、二の宮、三の宮とある。神輿の形も今とだいぶ違って、大体六面体くらいの形だったんですね。こっから浅草寺本堂に向かって行列が続いているんです。本堂へ行ってみましょう。今の仁王門を入れて、右にあるのがさっき言っていた舞台です(図2)。さらに右に本堂があるでしょ。

時代によって多少違うんですな。いろんな資料が残ってますから。例えば戸田茂睡という人がね、天和3年、1682年に書いている、「紫の一本ひとほん」という本があるんですけど。これに出てくる三社権現は、「駒形堂より船に乗せ申し、浅草見附の船附より上がらせたまひ、本道を本社へ向かわせたまう」と書いてあります。浅草橋のところから上陸させたと書いてあるんですね。

享保10年、1735年に菊岡沾涼という人が書いた「続江戸砂子温故名跡志」というものには、「三社神輿は浅草の見附まで渡り、浅草御門の外神田川で神輿を船に移し、浅草川つまり隅田川をこぎ浮かべて、駒形より上がる」と書いてある。だから菊岡の言ってる方が、俗に使われている方です。屏風絵なんかは戸田茂睡の方ですね。

それから松浦静山という人がいるんですけ



図2：浅草寺境内。  
左から仁王門、各町が出し物を演じる舞台、本堂

ど、江戸後期の平戸藩の大名のご隠居なんです。この人が1821~41(文政4~天保12)年に書いた「甲子夜話」という本やなんかで見ると、屏風絵の方に近くなっているようです。時代によって違うんだということがわかりいただけます。江戸の初期の形があって、途中で変わって、最後の頃に江戸の初期の形に戻ったっていうね。

これみんな、すごい人なんです。大体、大名はですね、お祭りをこっそり見に来てるんです。なるべく目立たない格好でね。あまり大名行列みたいな形で見に来ちゃ失礼だから。そういう人たちにしてみると庶民の力はすごいなっていう、感動があるわけですね。

宮様をご覧になると聞き  
町衆たちは大張り切り

この頃のお祭りのことを調べていくと、一時期あんまり派手にしすぎたために、中止されている時代があるんです。あんなに派手にやるのは街の風俗として許せないと言われて、一時期本祭りをやってはいけなくなるわけですね。その時期がずいぶん長いこと続きまして、なんとかしたいと街の人たちが思うんです。そうして43年ぶりかな、文政6(1823)年に本祭りが復活するんです。それまで陰祭りだけだったのが、43年ぶりに本祭りが復活するというその前の年、文政5年には早くもその兆候が見えてきま

してね。いろいろお神輿が派手になってきてですね。

上野寛永寺の輪王寺宮、貫主、すなわち寛永寺の主ですな。法親王様、宮様ともいいますな。法親王様っていうのは、天皇は一人でもいいわけですから、弟やなんかはお坊さんになるんですね。天皇のご兄弟でお坊さんになった人を法親王というんです。公澄法親王、上野の宮様と言われた人は、よく浅草寺に来るんですよ。そして伝法院のところにお泊りになる。宮様が通る道というのがあるんです。伝法院の本坊のところから仲見世を出て本堂まで、宮様が通るとなると大変でしょ？ 全部片付けなきゃいけないから商売ができない。それは可哀想だからということでね、伝法院の中を通過して境内へ行けるんです。

その宮様が文政5年に祭礼をご覧になるとおっしゃったから一気に盛り上がりちゃったんです。まだ陰祭だというのに。浅草寺の代官から宮様がご覧になると聞かされた門前の連中は張り切るだけ張り切っちゃって。町内の若いもんたちが万灯という、提灯を集めた大きいやつをこしらえ上げて、娘たちも踊りの稽古をして衣装も作って、練り子も武士でもない者が武士の仮装をして。陰なのにすごい派手なお祭りになっちゃってね。

罰金とお小言で噴出！  
本祭り復活の機運

それで、お上からお小言を頂戴するんです。お前のところは本祭りやっちゃいけねえんだから、というふうに言われるわけです。氏子の連中にすれば、宮様を喜ばせたいというサービスのつもりだったんですけどね、こういうのはあまりサービスにならなかったみたいですね。中断していた鬱積もあっただけでしょうな。で、風俗の取締ということで、北町奉行所で取調べを受けるんです。今の東京駅の辺りですね。南町奉行所はかつての日劇の辺り。西武デパートなんかあるでしょ？

門前町の浅草西仲町の庄屋で善八店の末吉つつあんたち約10人が「科料」、罰金のことですな。おあざし(銭の穴に紺染めの細い麻縄を通して結び連ねたもの)五貫文なんてあ



りますけどね。五千文くらいということです。五千文というのは時代によって違いますけど、今のお金で言うと10万から15万くらい取られます。そんなに大きくはないですけど。お金も取られて、さんざん叱られてね、せっかくサービスしようとしたのに何で怒られなきゃいけないんだというね。

すると、本祭りやっちゃいけないってのが問題なんだから、本祭りやらせろよという動きになるわけですね。で、浅草寺から寺社奉行に話が行って、文政5年の11月に頼みに行くんですね。その時の返事が、古い言葉で書いてあるんですけど、まあ簡単に言うと、すぐには回答できないという言い方だったんですね。お上の方が少し時間を稼いで。すると当時の三社祭は3月でしょ。11月に届け出だして、即答してくれなくて、本祭りまであまり日がない頃になって、許しが出るんです。この時期からだったらそんなに派手なことは出来ないだろうと思ったんでしょうね。

### 本祭り43年ぶりの復活で 大店が大盤振る舞い

ところが浅草の人間はやるんですね（笑）。平気な顔してやっちゃうんです。今、雷門の前に三井住友銀行がありますね。あれの隣の並木側のところに、やまやっていう、あたしが子供の頃は洋酒と洋菓子を売ってましたよ、チョコレートだとかね。あたしも小さい頃、買ってもらいました。昔のレコード盤の形をしたチョコレートだとかね。ここは江戸時代からずっと酒屋さんです。このやまやというのは大手の、大変有名な酒屋さんでありまして、この時、各町にですよ、18力町全部にですよ、菰被りの酒樽、俗に菰樽というやつですね、これを5樽ずつ寄付したっていう。すごいでしょ、合計90樽。寄贈しちゃったんだ。その他に、自分の町の若い衆にはね、八丈の縞、黄八丈ってのはね、艶がすごいでしょ、それを見習って大島紬なんかができるわけですからね。八丈ってのは当時、白紬でも大変な価値だったんです。これを若い者全員に反物一反ずつ配っちゃう。何でも好きなものに使ってくれ、みたいな感じで。



図3：前編で触れた「堂下げ」。浅草寺本堂で宿りごとをした神輿を本堂から下ろす

それに対して諏訪町ってのは厩橋の方ですね。そろばんやという大変けちなそろばん屋があった。相当の金を寄付させようとして若者たちが押しかけて100両出せやと言ったところ、「久しぶりのお祭ですから」と200両出したそうなんです、けちで有名なそろばん屋が。したら若い衆たちが慌てて逃げ帰った。逆にそういうふうにされると驚いちゃうんだ。で、これ以前にもけちで有名な扇子屋なんてのがあったんですよ。この頃、うちはまだ扇子屋じゃなかったんで、うちの先祖ではないんですけども（笑）。その店先で乱暴な若者がせいろを山積みして、商売の邪魔をしちゃう。店の中で乱暴狼藉を働いちゃう。町名主に訴えたけれど、結局は示談になりました。店側がこれらの若者を料亭に招いて、お取り下げになったんですけども。店側は大散財だと思っただけね。

### 祭りのために娘を吉原へ 大名も驚く庶民パワー

しょうがないのは田原町の町人ですね、大変貧しい男がいたんですけど、祭りの時になると突拍子もない格好をしたがるんだね。着物を作ろうってことで自分の娘さんを吉原に売っちゃったんですね。酷いでしょ？ で、当時の縷子ですね、黒白二反買い集めて格子にして、ご禁制の羅紗に金糸でもって大きく田原町って縫ったんだって。馬鹿でしょう？

どうせバシないだろうと思ってそんなご禁制のいい格好をしていたら、とんでもねえ野郎だっていうことで追っかけ回されて、その男は千束田んぼの方に逃げてっらしいんです。で、みんなによってたかってやられそうになって、田んぼの中で泥だらけになったっていうのも、記録に残ってます。無駄なことです。娘はどうしたんだろうね？

田原町の呉服商で上総屋というのがありまして。この人はすごいですよ、5歳の我が子に桃太郎の役をやらせようということですね、中村屋みたいだな。桃太郎の衣装を仕立てて、共ぞろいで近所の子供たちの衣装も揃えて作ったんですけど、当の子がお祭りの直前に痲瘡が原因で亡くなっちゃうんです。しょうがないから衣装を近所の子たちにあげてね、桃太郎道中を演じたなんていう、涙なくては語れないようなことも起こっています。

この祭りの日、松浦静山は「まことに錐の立てるところもなく」、キリって細いもんでしょ、その隙間もないくらいの人で繁盛したと書いています。実は松浦公が見に行った5年は、まだ陰祭だということで駕籠で行ったんです。駕籠の隙間から覗いていたら駕籠が壊されてしまって、命からがら逃げ延びたというくらいの人だったんです。大名ですからね、

本来ならいろんな人に押されたりするというのは有り得ないですよ。で、その様子が頭に入っているから、翌年の6年は駕籠は使わずに、そっと見ていたらしいんですけど。

### 通り沿いの家では棧敷席 親戚そろって祭り見物

神輿が浅草神社から浅草見附（浅草橋）に向かうのに対して、山車は浅草見附から浅草神社に来る。見附というのはね、見つけるところからついた名前なんです。犯罪者を見つける、悪い奴を見つけるというね。というのは見附をくぐると江戸の中心部になるから警戒をしたんですね。東海道をずっと下ったところが芝口見附。甲州街道をずっと来たところが四谷見附ですな。で、浅草見附ってのは、奥州街道、日光街道、水戸街道からずっと来て、見附をくぐると江戸の中心部になる。3つも街道があるわけですから、いつもものすごく人が混むんですね。馬の数が多いいです。だから馬道なんていうでしょ？ 江戸通りをずっといくと馬喰町があって、鞍掛橋なんていうのがあって、小伝馬町、大伝馬町。馬に関連する名前ばかりでしょう？ だからそれくらい人馬の往来が激しいところだったんです。なんとなく当時の浅草



図4：「江戸名所図屏風」に描かれた三社祭



というのが、少し見えてくる感じがしますね。

えーそれで、僕が何の話をしようとしたか。脇道に逸れるでしょ？ 逸れた話が面白いってよく言われてね、つつい平気で逸れるんですけども。まあとにかく大変人通りが多い。見附の方から山車が来る。浅草神社からはお神輿の行列が行くということで、その両方が行くもんですから、この雷門の前、広小路のところの一本道ってのは祭り見物のメッカでしょう。ていうことはこの住人、つまりやまやも含めてですよ。通り沿いの人たちは親戚やなんかを呼んでね、「うちにいらっしやい、見られるから」なんてね。縁台に棧敷をつくって緋毛氈を敷いちゃったりなんかするわけです（図5）。みんなでご馳走を食べたりお酒を飲んだりしながら、拍手して行列見て、わーすこいねーなんて言って。

するとこの時の材木の代金だけで、間口5間で3両、諸雑費入れて4両から5両。それもあの通り沿いの人がみんな買うわけですから、材木の値段も上がっちゃうわけです。この近辺の材木屋では足りなくなってくる。結局、千住の方の材木屋まで買に行かなければならいになっているんですね。棧敷だっってね、作ってくれる人がそんなにいっぱいいるわけじゃないから、もう祭りの前の最後の方は徹夜ですよ。徹夜して棧敷を作ってもらうなんていうのが資料にも出てきます。



図5：通り沿いの家では行列を見物している

### 天下祭り超えに異議 山車は廃止で神輿中心に

あんまり派手になりすぎるんで、天下祭りより、つまり神田や山王より派手な山車を作っちゃうんですね。すると将軍がご覧になるものより派手なものを町場の人間が楽しんでじゃいけないってことになるんですね。で、三社のメインはお神輿になっていくんですけども。松浦公の書いたものはですね、天保の頃のものでかなり江戸の末期ではあるんですね。だけどこの頃にはまだ山車があったわけですから。廃止になったのは本当に江戸の末期であって、文政年間なんていうのはまともにお神輿も山車も出ているわけです。

文政6年というのは1823年ですね。明治元年というのは1868年でしょ。これからまだ40~50年あるわけです。その間のどっかしらで禁止になって三社祭の山車というのはなくなるわけです。お祭りといえばお神輿というふうに変っていきんです。だから俗に文化・文政の頃と言われますけども、その頃の山車行列というのは一番が黒船町・三好町というのは蔵前寄りのところで、源為朝の人形。二番山車が茶屋町、雷門の前つかたの両サイドと並木町、この辺りが宝船。

三番が駒形町、駒形堂（こまんどう）の辺りが天岩戸と岩に鳥。ただし言っときますけど、当時駒形橋はなくて、駒形堂のあった位置ももうちょっと南側です。四番目は諏訪町、

駒形町の向こう隣。鶴岡八幡宮の大銀杏通りの歌舞伎があって、付け祭りが別について、付属の練り物みたいなものですけども、この付け祭りが瓢箪に駒。瓢箪から駒が出たようなやつね。それから桜の花です。五番目が三間町、これが頼政人形と太鼓。それからあやめの舞というのがあって、猪早太と鶴。鶴っていうのはね、虎みたいなもの、ものすごく大きい妖怪。鶴退治なんて浅草寺の絵馬にもありますけど。

### 蜃気楼に金太郎 何でもありの山車行列

六番目は田原町1丁目から3丁目まで。これが浦島太郎と船に錨、それから珊瑚樹の枝、竜宮、鯛と鯨なんていうのを母体にした山車が出ました。七番目が西仲町、三間町と田原町の間ぐらいと考えたほうがいいかな。その出した山車が弁財天人形と蜃気楼。蜃気楼なんてどうやって作るのかね？ 御所人形、それから方丈記。八番目は東仲町、今のオオゼキの辺りかね。そこはしめに羽子板、しめ縄みたいなものがあるんですね。九番目が田町、今でもありますね、千束通りから土手通りに突き当たる手前の左右。ここが練り物と飾り物を出しました。十番目の山車が材木町、雷門郵便局から吾妻橋際の地下鉄のあの辺でしょう。ここが紙雛とはまぐりと布袋様。おもしろい取り合わせですな。

十一番目は花川戸町、吾妻橋の際から、一の権現社のちょっと手前くらいまで。ここが助六の揚巻と、蛇の目傘と、箱提灯。新吉原の大間口ですよ。それに付け祭りが踊り屋台、破魔弓、宝船、桜に紙雛、それから田舎家、菊の花。十二番目の山車は山之宿、都立産業貿易センターがあるこの界隈ですな。ここは姥が池、この会場のすぐ向かいつかたにある。出し物はあかぎの草堂と牛だそう。牛といってもたぶん黒牛なんでしょうね。十三番目が南北の馬道町。えー今の中村屋というお惣菜屋さんがあるところから左に曲がって馬道の角、ここへの出し物は岩に山姥の人形、金太郎のお母さんですね。それに岩に金太郎。金太郎親子ですね。十四番目が聖天町。吉野



図6：現代の三社祭。仲見世を神輿が行く

通りの両側ですね。ここは蜃気楼、また出てくるんですね。蜃気楼と枝珊瑚樹。

十五番目が聖天横丁、猿若町の北側です。これが岩に舞の人形。十六番目、金龍山山下瓦町。聖天様の前から隅田川にかけて、来年（2011年）の11月から平成中村屋ができるでしょ、あっちの方とを考えてください。あの辺りが毘沙門天と弁財天と延命袋というね。十七番目、山谷の浅草町、飛び地と言われる、つまり朝日商店街すこし手前から、吉野通りの左右です。そこは猿とからくり人形。

山車の行列だけで総勢3千人いたそう。みんな衣装着たりいろんなことをやるわけですからね。で、一方でお神輿がずっと来るわけですから、こりゃ見応えがあるでしょう。棧敷で見られたら大変なことでしょう。そんなことをやったんですが、やり過ぎた、ね。やり過ぎた結果、山車出すなよって言われちゃったってことですね。三社祭、ものすごいパワーということですよ。

ちなみに言っておきますが、再来年（2012年）は三社祭700年。ちょうどこの頃、江戸博では江戸の祭り展というのをやってもらうことにしました。主は天下祭りの2つですけども、天下祭りより歴史のある三社祭も入ります。館長さんにもOKいただいていますから、どうぞそちらの方もご覧下さい。

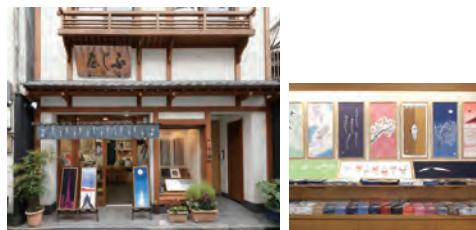
それから次回のお話は浅草寺境内ということで、これは面白いです。バカバカしいほど面白いですから。聞いた方が得だと思えますよ。ということで今日はこれで終わりにします。どうもありがとうございました。



# ウチのイチオシ!

## ふじ屋

### めで鯛



1946年の創業以来、三代にわたって手拭図案を描いているふじ屋。注染染めという技法で染めた手拭はプリントものとは違い吸水性、速乾性に優れています。「使うほどに馴染んで柔らかく、色合い、色の褪め方などの変化を楽しんでいただけます」。そう話す店主・川上千尋さんのイチオシは「めで鯛」。結婚式や御祝いなどの「お目出度い」贈り物に喜ばれており、「御祝いの包みとして、また額装して飾ることで枠からはみ出た大胆な構図をより楽しんでいただけます」。江戸の粋を感じる一品ですね。

お店の紹介は P.24 地図 P.14-B3  
 電 03-3841-2283 営 10:00~18:00  
 住 台東区浅草2-2-15 休 木曜日  
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/fujiya.html>

## 都鳥

### 紹介制バー「千」



料亭・都鳥では店舗の一角に「千」という紹介制のバーを設けました。「いつもお座敷でしか逢えない芸者衆と気軽に遊んで頂けるようにとの想いでこしらえました」と女将の河村千景さん。遅い時間よりも開店直後の19時からがお勧めで、お寿司や焼鳥等の出前を取って一次会からの利用も可能とのこと。「奥浅草とも言われるこの地は今も浅草芸者衆がお仕事している地域です。最近では観光客の方々や面白いお店も増えてきました。浅草の表を楽しんだ後はぜひ観音裏にも足をお運び頂ければ幸いです」。

お店の紹介は P.21 地図 P.15  
 電 03--3874-2175 営 不定  
 住 台東区浅草3-23-10 休 土・日曜日  
<http://asakusa-miyakodori.com/>

## 渡辺眼鏡商店

### WISSING製フレーム



「フレームのカラーは1枚ごとの生地を圧縮してミルフィーユのように重ねて作るんですよ。私も初めて見た時は工程の多さにビックリしました」と気さくに教えてくれたのは店主の渡辺晃吉さん。イチオシはドイツのフランクフルト近郊の小さな工場で作っているWISSINGというメーカーのフレーム。パリの展示会以来20年以上の信頼関係があるそうで、1本ごとの受注生産につき色やサイズなどの指定も可能。「ぜひご来店いただいて、このメーカーに限らずあれこれ掛け較べて楽しんでみて下さい」。

お店の紹介は P.27 地図 P.16-C1  
 電 03-3841-7466 営 9:30~19:00  
 住 台東区浅草1-16-7 休 火曜日  
 (祝日の場合は営業)  
<http://www.watanabemegane.com/>

## 東京モード

### コサージュ



舞台衣装やダンスウェアなど、常に新しいデザインや色合いを取り揃え、お客様がご来店の際に新たな出逢いがあるように心がけている東京モード。店主の染谷和良さんが勧めるのはコサージュです。「胸元だけでなく、髪飾りやウエスト回りなど自由にアレンジして楽しむことがオシャレのコツです。ドレスに合わせた色合いのものをワンポイントとして付けるだけで、舞台上で華やかになり、写真映りも一段と良くなるとお客様から喜ばれています」。店内では試着しながらショッピングが楽しめますよ!

お店の紹介は P.24 地図 P.14-B2  
 電 03-3841-3915 営 10:00~18:30  
 住 台東区浅草1-32-2 休 年中無休  
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/tokjomode.html>



# 浅草周辺マップ



# 浅草寺マップ



## 浅草寺境内石碑ガイド 浅草寺境内の主だった句碑・顕彰碑

- 1 川口松太郎の句碑**  
「生きるということは、むずかしき、夜寒かな」と刻む。
- 2 久保田万太郎の句碑**  
「竹馬やいのはにほへとちり」に刻む。
- 3 市川猿翁の句碑**  
「まだ身にそはず衣がえ」という三代目市川猿翁の句を刻む。
- 4 河竹黙阿弥顕彰碑**  
歌舞伎狂言作者・河竹黙阿弥を顕彰して、台東区が建立した。
- 5 中村吉右衛門の句碑**  
「女房も同じ氏子や除夜詣」と刻む。
- 6 並木五瓶の句碑**  
「月花のたわみころや雪の竹」と刻む。
- 7 山東京伝机塚の碑**  
江戸時代後期の戯作者・山東京伝の愛用した文机が埋められた上に建てられたとされる碑。
- 8 釘供養碑**
- 9 団十郎「暫」の像**  
九代目市川團十郎の歌舞伎十八番「暫」の像。
- 10 映画弁士塚**  
無声映画時代の名弁士たちを記念して建立。
- 11 半七塚の碑**  
捕り物小説の生みの親である岡本綺堂を記念して建立。
- 12 三匠の句碑**  
宗因・芭蕉・其角という三人の佳句を刻む。
- 13 正岡子規句碑**  
「観音で雨に逢いけり花盛」と刻む。
- 14 芭蕉像と句碑**  
「くわんをんのいらか見やつ花の雲」の句を上部に、下部に松尾芭蕉の座像を刻む。
- 15 旧五重塔跡碑**
- 16 浅草寺の神木・いちよう**  
源頼朝公が浅草寺参拝の折、挿した枝から発芽したと伝わる。昭和20年の東京大空襲で多くを焼失したものの、戦災をくぐり抜けた神木として大切にされている。
- 17 夫婦狛犬**  
二体並び寄り添う一對の狛犬。「良縁」「恋愛成就」「夫婦和合」の願いを込めて祀っている。
- 18 三柱の石碑**  
浅草神社に祀られている三神、檜前浜成・竹成、土師中知の名が刻まれている。
- 19 神木・槐の木**  
浅草寺御本尊の聖観世音菩薩が檜前浜成・竹成兄弟に綱渡された際、安置されたのが槐の木の子株。以来、絶えることなく自生する緑の深い木である。



## 浅草中央エリア

●…食べる ●…買う ●…その他



## 中央部会員店

- 1 神谷バー
- 2 雷門 三定
- 3 浅草うまいもん あづま
- 4 かと里
- 5 名代らーめん 与ろみ屋
- 6 浅草 鮎よしだ
- 7 釜めし 麻鳥
- 8 炭火会席 蔵
- 9 お好み焼き 一丁目
- 10 和風居酒屋 魚菜
- 11 天ぷら 葵丸進
- 12 三角
- 13 鉢の木
- 14 尾張屋
- 15 弁天山 美家古寿司
- 31 手焼きせんべい 和泉屋本店
- 32 手焼きせんべい 和泉屋観音通り店
- 33 浅草きびだんご あづま
- 34 諸国名産珍味 熊野屋
- 35 おもちゃのサワダ
- 36 ダンス・舞台衣装 東京モード
- 37 組紐 桐生堂
- 38 手焼きせんべい 和泉屋仲見世店
- 39 てぬぐい ふじ屋
- 40 あげまんじゅう 浅草九重
- 41 常盤堂雷おこし本舗
- 42 刃物 かね惣
- 43 舞扇 文扇堂雷門店
- 44 舞扇 文扇堂仲見世店
- 45 ミドリ屋
- 46 木村家本店
- 47 よのや櫛舗
- 48 よ兵衛
- 49 和装履物 浅草辻屋本店
- 50 浅草の保健室ネオ
- 51 江戸金銀工芸もり銀
- 52 コマチヘア
- 68 村石電気工事

## 浅草北部エリア

●…食べる ●…買う



## 北部会員店

- 16 和風れすとらん若
- 17 レストランいのだもあれ
- 18 料亭 都鳥
- 19 すし処 清司
- 53 祭礼用具 宮本卯之助商店本店
- 54 株式会社製菓川喜多

## 山谷堀



山谷堀はかつての吉原への道筋の一つ。柳橋で猪牙船を仕立てたお大尽は、隅田川を上って今戸橋から山谷堀を抜けて吉原へ通った。現在、堀は埋め立てられたが、堀端の桜は当時の名残を残し、今日も桜の名所として知られている。

## 浅草富士浅間神社



毎年7月1日の富士の山開きで有名な浅間神社(せんげんじんじゃ)は、地元の人から「お富士さん」の愛称で親しまれている。江戸時代に各地に広がった富士浅間神社の信仰だが、浅草富士浅間神社は静岡県富士市から元禄年間に分社したもの。本殿外観は平成9年から10年の改修工事によって漆喰塗りが施されているが、内部には明治11年に建築された土蔵造りが残されている。毎年5月最終土日と6月最終土日に植木市が開かれ、浅草の年中行事として賑わいを見せる。

## 待乳山聖天



待乳山聖天(まつちやましようてん)は、正しくは待乳山本龍院という。境内のいたるところに大根と巾着を組み合わせた比翼紋があるが、これは健康増進などを祈願する聖天信仰の現れとされる。毎年恒例の大根まつりには多くの信仰者が訪れる。

昔は待乳山の手前に隅田川が流れ、東都随一を誇る眺望の名所として知られた。現在はその眺めは見られないが、江戸末期に作られた長さ25メートルに及ぶ築地塀などが往時をしのばせる。



## 浅草西部エリア

●…食べる ●…買う



### 西部会員店

- 14 尾張屋
- 20 常寿司
- 21 天麩羅 中清
- 22 Bistro Kinukawa
- 23 居酒屋 TAKEYA
- 24 すき焼 浅草今半
- 25 どぜう飯田屋
- 29 コマチヘア
- 55 デイジー
- 56 渡辺眼鏡商店
- 57 演劇・舞踊小道具 すずや
- 58 足袋・祭用品 めうがや
- 59 祭礼用具 宮本卯之助商店西浅草店
- 60 ヤマダの家具
- 61 今昔きもの龍巳(胡蝶)
- 62 まつもと履物店
- 70 浅草ビューホテル

### 江戸下町伝統工芸館



ひさご通り内にある洒落たたたずまいの江戸下町伝統工芸館は、台東区の手仕事に生きる職人さんの技術・技法を紹介する文化施設。実演のスケジュールは、ホームページをご覧ください。  
<http://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/shigoto/jibasangyo/kogeikan/index.html>

### 久保田万太郎誕生の地



久保田万太郎は、明治22年11月7日にこの地に生まれ、大正3年慶応義塾大学文科を卒業するまでの26年間在住。昭和38年5月6日に永眠するまで、明治・大正・昭和の三代に亘り、下町の義理と人情を描いた小説・戯曲等を発表し、文学・演劇界に多大な功績を残した。

## 浅草南部エリア

●…食べる ●…買う ●…その他



### 南部会員店

- 26 シーフードレストラン 月見草
- 27 ロシア料理 マノス
- 28 うなぎ 初小川
- 29 茶寮 一松
- 30 三代目魚熊
- 63 和菓子 龍昇亭 西むら
- 64 市川とうふ店
- 65 木彫 宗舟
- 66 書道用品 宝研堂
- 67 ゴルフ グリーンジャケット
- 69 ホテルサンルート浅草

### 駒形堂



駒形堂(こまんどう)は、浅草寺のご本尊が隅田川から示現され、上陸された地に建てられたお堂で、浅草寺の発祥の地ともいえる。現在は、ご本尊として馬頭観音が祀られている。

### 岡崎屋勘六(勘亭流元祖)の墓



西浅草一丁目にある清光寺の境内に、勘亭流の元祖といわれる岡崎屋勘六(文化2年2月3日に59歳で没)の墓がある。

勘六は、延享3年に江戸に生まれ、日本橋で書道塾を開いていた。号を勘亭といひ、安永8年に中村座新春狂言の看板を書いたことが評判を呼び、芝居文字として勘亭の書いた文字(勘亭流)が主流となったという。

### はなし塚



田原町駅近くの本法寺境内にある落語ゆかりの珍しい石碑。大戦中に各種芸能団体が演題を自粛した際、落語界でも演題の花柳界・酒・妾などに関する落語53種を禁演落語とした。はなし塚は、中に含まれた名作と先輩の霊を弔うために建立され、この塚の下には禁演落語の台本が納められた。戦後の昭和21年9月には、塚の前で禁演落語復活祭が行われた。



# 浅草槐の会・会員店紹介

## 1 神谷バー (雷門通り)

地図内番号 店名 通り名

ビアホール、レストラン、割烹 地図 P.14-C1

分類 地図掲載ページ

## 1 神谷バー (雷門通り)

ビアホール、レストラン、割烹 地図 P.14-C1



明治13年創業、明治45年「神谷バー」と屋号を改めた日本で最初のバー。名物デンキプランとともにご愛顧頂いております。お一人様には1階が、グループのお客様には2階レストラン、3階割烹がお勧めです。

電 03-3841-5400  
住 台東区浅草1-1-1  
営 11:30~22:00(L.O 21:30)  
休 火曜日

<http://www.kamiya-bar.com/>



## 2 雷門三定 (雷門通り)

天ぷら・和食 地図 P.14-C1



創業以来江戸前天ぷらの味を守り百六十余年。胡麻のきいた黒っぽい天ぷらですが、あと味が軽いのが身上です。店も仲見世の入口にあり、ご散策に大変便利。季節ごとになる旬の天ぷらに江戸の粋を御堪能下さい。

電 03-3841-3200  
住 台東区浅草1-2-2  
営 11:30~22:00(L.O 21:30)  
休 無休

<http://www.tempura-sansada.co.jp>



## 3 浅草うまいもん あづま (新仲見世通り)

和食・寿司・甘味 地図 P.14-B2



なつかしい味の下町料理(和食、江戸前寿司、オムライス、自家製甘味…)を是非お楽しみ下さい。二階の掘りごたつ席での御宴会も大好評です。

電 03-3841-0190  
住 台東区浅草1-32-1  
営 平日11:00~21:00  
土日祝10:30~21:00  
休 無休

<http://aduma.tokyo>



## 4 かとり (新仲見世通り)

食処・茶処 地図 P.14-C2



トレードマークのダイナミックな滝を眺めつつ2階へ上がると、和モダンな空間。みつ豆や白玉、おしるこ、パフェなど、種類豊富な甘味をご用意しております。浅草散策のひと時をお過ごしください。

電 03-3841-7400  
住 台東区浅草1-1-11(2F)  
営 11:00~20:00(L.O 19:30)  
休 木曜日

<http://asakusa-ryoin.jp/katori/>



## 5 名代らーめん 与ろみ屋 (伝法院通り)

らーめん 地図 P.14-B2



醤油らーめん発祥の地、浅草昭和30年代に店主がここで毎日食べていた日本蕎麦屋のらーめんを再現しました。煮干・かつを節のかおり漂う昔ながらの和風らーめんを下町の風情と共に楽しみ下さい。

電 03-3845-4618  
住 台東区浅草1-36-7  
営 11:00~20:30  
休 無休

<http://www.yoroiya.jp>



## 6 浅草 鮓よしだ (馬道通り)

寿司 地図 P.14-C3



「こだわらないのにこだわりたい鮓づくり」日本の旬を浅草で…全国津々浦々の旨い魚にこだわり、江戸前の仕事(煮蛤、鮓のづけ等)にこだわり、そしてお店よりお客様にこだわって頂きたい楽しい鮓屋です。

電 03-3845-7557  
住 台東区浅草2-1-14  
営 11:30~14:00  
17:00~24:00  
休 日曜日

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/yoshida.html>



## 7 麻鳥 (公会堂横通り)

釜めし・串焼き 地図 P.14-B2



新潟県下田町より直送の100%コシヒカリを新鮮な素材と共に一釜づつ心を込めて炊き上げます。地鶏串焼も福島伊達鶏を紀州備長炭で丁寧に焼き上げます。大切な方々のおもてなしにどうぞごゆっくり御賞味下さい。

電 03-3844-8527  
住 台東区浅草1-31-2  
営 11:00~22:00(L.O 21:00)  
休 無休

<http://asa-kusa.jp/asadori>



## 8 蔵 (公会堂横通り)

炭火焼会席 地図 P.14-B2



旬の素材を使ったお助めの炭火焼会席コース、牛肉は和牛の特選焼物コース、アラカルトでは三陸産の鮑や伊勢海老などもございます。季節によって変わる焼魚も絶品です。焼物は全て炭火焼きで召し上がって頂きます。

電 03-3847-1129  
住 台東区浅草1-30-10  
営 11:30~23:00(L.O 21:00)  
休 無休

<http://asa-kusa.jp/kura>



## 9 一丁目 (雷門柳小路)

お好み焼き 地図 P.14-A1



新しい味の発見です!お好焼きをわさび醤油・ボン酢・抹茶塩などお召し上がり下さい。もちろんソースも自家製ですから食べ比べてみては? 当店の材料は全て純国産品です。

電 03-3845-7566  
住 台東区浅草1-21-2  
火水木12:00~15:00/17:00~22:00  
金17:00~22:00  
土日祝12:00~21:00  
休 月曜日ただし祭日の場合は火曜日

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/icchome.html>



## 10 魚菜 (雷門柳小路)

和洋居酒屋風レストラン 地図 P.14-A1



魚菜ではテレビでも紹介された三陸産のアワビの肝ソース焼きが大人気です。一品およびコース料理もございます。大小のご予約を承っております。今話題の焼酎、黒糖・芋・麦・米も取り揃えております。

電 03-3842-1919  
住 台東区浅草1-17-9  
営 平日17:00~23:30  
日祝日12:00~22:30  
休 無休

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/uosai.html>



## 11 葵丸進 (雷門通り)

天麩羅、季節料理、寿司 地図 P.14-A1



「旬の肴に天麩羅でちよいと一杯」季節料理に天井・天麩羅、お椅子席・お座敷席・個室席。お好みのスタイルでおくつろぎください。浅草に行きつけの天麩羅屋はいかがですか。

電 03-3841-0110  
住 台東区浅草1-4-4  
営 11:00~21:00(L.O 20:00)  
休 第2・4月曜日  
(祝日の場合は翌日)

<http://www.aoi-marushin.co.jp/>









24 浅草今半 (国際通り)

すき焼、しゃぶしゃぶ、日本料理 地図 P.16-B2



厳選された黒毛和牛と秘伝の割り下で、焼くように煮るすき焼が浅草今半流。ランチタイムサービスの「明治すき焼丼」と「ステーキ丼」は、浅草の隠れ銘丼と…。納得の味をお届けいたします。

電 03-3841-1114  
住 台東区西浅草3-1-12  
営 11:30~21:30  
休 年中無休



http://www.asakusaimahan.co.jp/

25 どぜう飯田屋 (合羽橋本通り)

どぜう料理 地図 P.16-B2



磨き込まれた籾敷きに胡坐をかいてどぜう鍋一刻文豪気分です

電 03-3843-0881  
住 台東区西浅草3-3-2  
営 11:30~21:30 (L.O 21:00)  
休 水曜日、祝物日は前後振替



http://www.asakusa.gr.jp/shop/iidaya.html

26 月見草 (浅草並木通り)

シーフードレストラン 地図 P.17-C2



魚介類を中心とした旬の食材を取り入れたシーフードレストラン。一番の人気を誇るのは鮑のステーキ、水槽の中で生きているものをすぐに調理し丸ごと一つを鮑の肝で作った自慢のオリジナルソースをかけてどうぞ。

電 03-3841-8949  
住 台東区雷門2-11-8  
営 12:00~15:00  
17:00~22:00 (L.O 21:00)  
休 無休



http://asa-kusa.jp/tsukimiso

27 マノス

ロシア風レストラン 地図 P.17-B2



「ロール・キャベツ?いや!キャベツ・ロールです」。創業以来、作り続けて35年。元祖キャベツ・ロールといえば浅草マノス。料理は良い素材と美味しいものを作るという気持ち!今一度、おた召しあ〜れ〜!

電 03-3843-8286  
住 台東区雷門2-17-4  
営 11:30~22:30 (L.O 21:00)  
ただし平日15:00~16:30準備中  
休 火曜日



http://www.asakusa.gr.jp/shop/manos

28 初小川 (雷門仲通り)

鱧蒲焼き 地図 P.17-B2



明治40年の創業以来継ぎ足し使っている辛口のタレを使った鱧は、注文を受けてからさばき、蒸してから焼く。江戸前風七輪の炭で焼いた鱧はムダな脂が落ち、身もふっくらやわらかで上品な味わいです。

電 03-3844-2723  
住 台東区雷門2-8-4  
営 平日12:00~14:00, 17:00~20:00 日祝17:00~20:00  
休 不定休



http://www.asakusa.gr.jp/shop/hatsugawa.html

29 茶寮 一松 (万太郎横町)

会席料理 地図 P.17-B2



ご宴会に、季節の色で盛り付けされた茶寮一松での会席料理はいかがでしょう。お昼のミニ会席や料亭ウエディングプランなどもご用意しております。しばし浮世を離れ、浅草ならではの粋なひと時をお楽しみ下さい。

電 03-3841-0333  
住 台東区雷門1-15-1  
営 11:00~22:30  
休 月曜日・お盆・12月は不定休・年末年始



http://www.ichimatsu.co.jp

30 三代目魚熊

ふぐ・魚料理 地図 P.17-B1



魚屋から始まり、皆様に支えられて創業77年。1日も欠かさず築地で魚を手に取り仕入れています。魚のことでは妥協致しません。お客様の「旨い」の一言のため、感謝を込めて笑顔あふれる店作りに励みます。

電 03-3851-5914  
住 台東区蔵前3-20-5  
営 17:00~22:30  
休 日曜・祭日



http://uokuma.com

31 和泉屋本店 (観音通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14-C1



良質の食材(もち米・うるち米・醤油・天然塩等)を使った、あられ、手焼きせんべい、おかきを製造しています。缶・和紙箱・竹籠の御進物セットが人気です。

電 03-3841-5501  
住 台東区浅草1-1-4  
営 10:30~19:30  
休 木曜日



http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html

32 和泉屋観音通り店 (観音通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14-C1



このところ、堅焼の人气が復活しています。天日干しの「厚焼せんべい」。もち米の「風神雷神」。堅焼の定番げんこつ等、リピーターのお客様が増えています。

電 03-3841-8385  
住 台東区浅草1-1-6  
営 10:30~19:30  
休 木曜日



http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html

33 浅草きびだんご あづま (仲見世通り)

きびだんご 地図 P.14-B1



江戸時代、観音様の参道・仲見世で繁昌した門前のきびだんごを再現しております。粋なにいさんと下町娘たちのきびだんご作りの実演もご覧下さい。夏の冷し抹茶や冬の甘酒も大評判です。

電 03-3843-0190  
住 台東区浅草1-18-1  
営 9:00~19:00  
休 無休



http://www.asakusa.gr.jp/shop/kibidango.html

34 熊野屋 (観音通り)

諸国名産珍味 地図 P.14-C1



ちょっと昔、よく食べたあの口が曲がるくらい塩辛い紅サケの切身、お茶漬け、お酒にぴったりの塩干ダラ、本場新島の本乾クサヤの干物等々が下町浅草でお求めいただけます。本場大分産の肉厚シタケも好評です。

電 03-3841-8089  
住 台東区浅草1-19-10  
営 10:00~18:00  
休 木曜日



http://www.asakusa.gr.jp/shop/kumanoya.html

35 おもちゃのサワダ (新仲見世通り)

玩具一般 地図 P.14-C2



昔ながらのオモチャヤです。ビー玉・面子・ペーゴマから、今話題のオモチャまで、品数豊富に取り揃えております。お値段もお勉強させて頂いております。皆様の是非の御来店をお待ちしております。

電 03-3842-7367  
住 台東区浅草1-33-3  
営 9:30~19:00  
休 水曜日



http://www.asakusa.gr.jp/shop/omocha.html



36 東京モード (新仲見世通り)

ダンス・舞台衣装 地図 P.14 - B2



婦人服・子供服から舞台衣装・ダンスウェアまで、最新デザインの商品をサイズ豊富に取り揃えております。お値段はサイズに優しい下町価格。普段のオシャレに、ダンスやカラオケの発表会に、ぜひご利用下さい!

電 03-3841-3915  
住 台東区浅草1-32-2  
営 10:00~18:30  
休 無休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/tokymode.html>

37 桐生堂 (浅草メトロ通り)

組紐、和雑貨 地図 P.14 - B2



当店は、商品も手作りですが内装も手作り、材木を切ったりニスを塗ったり、気ままに楽しんでいます。竹を買って店の外側に取り付けました。下に風知草を置いて、なかなか良く出来たと思っています。

電 03-3847-2680  
住 台東区浅草1-32-12  
営 10:30~19:00  
休 無休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kiryudo.html>

38 和泉屋仲見世店 (仲見世通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14 - B2



約100種類のあられ、手焼せんべい、おかきを販売しています。江戸情緒あふれるパッケージ(江戸童(わらべ)絵・日本人形・雷門)の手土産が人気です。

電 03-3844-2687  
住 台東区浅草1-37-1  
営 10:30~19:30  
休 木曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>

39 ふじ屋 (弁天山側)

てぬぐい 地図 P.14 - B3



四季の草花、歌舞伎、歳時記などのオリジナル染絵でぬぐいを額装したインテリアや、江戸時代より「そめぎれ染布」として暮らしの中で使われてきた江戸小紋などで、てぬぐいを生かした粋な暮らしをお楽しみ下さい。

電 03-3841-2283  
住 台東区浅草2-2-15  
営 10:00~18:00  
休 木曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/fujiya.html>

40 浅草九重 (仲見世通り)

あげまんじゅう 地図 P.14 - B3



「浅草寺から三軒目」浅草九重はあげまんじゅうの実演販売のお店です。国産大豆を原材料とし、最高級のごま油を使用しています。日持ちのするお土産用のラインナップも充実し、国内はもちろんのこと、海外のお客様にも人気です。

電 03-3841-9386  
住 台東区浅草2-3-1  
営 9:30~19:00頃  
休 無休



<http://agemanju.jp>

41 常盤堂雷おこし本舗 (雷門通り)

雷おこしを主とする菓子 地図 P.14 - B1



今も変わらぬ下町ならではの粋や人情にふれあう事の出来る浅草において、下町の心・伝統の味を守り続ける常盤堂。江戸銘菓「雷おこし」家を「おこし」名を「起こす」という縁起の良さから長い間、浅草のお土産として親しまれております。

電 03-3841-5656  
住 台東区浅草1-3-2  
営 9:00~21:00  
休 無休



<http://www.tokiwado.tokyo>

42 かね惣 (雷門柳小路)

刃物 地図 P.14 - B1



プロ仕様から家庭用まで各種取り揃えております。創業(明治6年)以来、伝承されてきた古式鍛錬秘法の切れ味を一度お試し下さい。また、ご婚礼祝い、仏事のお返しなどにご利用ください。

電 03-3844-1379  
住 台東区浅草1-18-12  
営 11:00~19:00  
休 不定休



<http://www.kanesoh.com>

43 文扇堂雷門店 (雷門柳小路)

舞扇、うちわ等 地図 P.14 - B1



扇専門店として当代で四代。各流派の舞踊家、歌舞伎の役者さん、芸者さんや落語家さんなど多種多彩な方にお越し頂いています。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわもあるお店です。気楽にお立ち寄りください。

電 03-3841-0088  
住 台東区浅草1-20-2  
営 10:30~18:00  
休 毎月20日過ぎの月曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html>

44 文扇堂仲見世店 (仲見世通り)

舞扇、うちわ等 地図 P.14 - B2



雷門店同様に、古典芸能のプロの方をはじめ多くのお客様に御愛顧頂いております。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわなども御用意しておりますので気楽にお立ち寄りください。

電 03-3844-9711  
住 台東区浅草1-30-1  
営 10:30~18:00  
休 毎月20日過ぎの月曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html>

45 ミドリ屋 (公会堂横通り)

舞踊衣装 地図 P.14 - B2



舞踊衣装のことなら当店にお任せ下さい。豊富な品揃えと驚きの低価格で、きっとご希望の品が見つかります。その他、お稽古着・反物も多数取り揃えておりますので、是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3843-1441  
住 台東区浅草1-30-11  
営 10:30~18:00  
休 毎月第2・4火曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/midoriya.html>

46 木村家本店

人形焼 地図 P.14 - A2



人形焼の木村家本店です。仲見世通り奥の浅草寺様に一番近い角で営業しております。当店の人形焼の形は五重塔、雷様、提灯、鳩の4種で浅草を表現しております。どうぞ昔から変わらない木村家本店の人形焼をご賞味ください。

電 03-3841-7055  
住 台東区浅草2-3-1  
営 9:00~19:00頃  
休 不定休



<http://www.kimura-ya.co.jp/>

47 よのや櫛舗 (伝法院通り)

黄楊櫛、黄楊製品 地図 P.14 - A2



伝法院通りにあり浅草寺、六区方面から大変に便利です。小店舗ですがつけ櫛の種類も豊富で、また櫛やかんざしの使い方も丁寧アドバイスさせて頂いております。是非一度御来店下さい。

電 03-3844-1755  
住 台東区浅草1-37-10  
営 10:30~18:00  
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/yonoya.html>



48 よ兵衛 (仲見世通り裏)

揚餅・お団子 地図 P.14・B3



サクッと軽くお味はしっかり。昔懐かしい母の味「揚餅」を食べていただくため、無駄なものは一切加えず、素材で香ばしい味を再現しています。お味は生醤油やしお、カレー、生醤油唐辛子など6種類。是非ご賞味あれ!

電 03-3841-0868  
住 台東区浅草2-2-7  
営 9:00~18:00  
休 不定休



<http://www.agemochi-yohei.com/>

49 浅草辻屋本店 (伝法院通り)

和装履物 地図 P.14・B2



浅草花柳界をはじめ、和装にうろさいお客様に愛され育てられて百年目。長く履いても痛くならず疲れない、熟達した職人の技が生きた鼻緒のすげ。「浅草好み」の履物を豊富な品数で取り揃えております。

電 03-3844-1321  
住 台東区浅草1-36-8  
営 10:00~19:00  
休 無休



<http://www.getaya.jp/>

50 浅草の保健室ネオ (馬道通り)

クスリ 地図 P.14・C3



浅草で創業63年のくすり屋です。一般薬・健康食品・ヒノキ肌粧品など取扱っております。なんでもお気軽にご相談くださいませ。

電 03-3841-5329  
住 台東区浅草2-1-15  
営 9:30~19:00  
土9:30~18:00  
休 日曜日



<http://www.neo-ph.com>

51 江戸金銀工芸もり銀 (オレンジ通り)

銀製品全般 地図 P.14・A2



日本の金銀工芸は西暦600年代より始まり、江戸時代に入って花開きました。現在もその時代からの手法を引き継いで、銀の食器類・アクセサリ・etcを自家製作販売をしております。日本の伝統文化を表す品々と自負しております。

電 03-3844-8821  
住 台東区浅草1-29-6  
営 10:30~18:30  
休 無休



<http://www.asakusamorigin.com>

52 コマチヘア (第一店・新仲見世通り、第二・三店・仲見世通り)

かつら・頭飾品 地図 P.14・B2, P.14・B3, P.16・C1



大正14年創業以来、職人氣質の「かつら」づくりに徹しています。日本髪から男女洋かつら、ヘアピース、余興かつら、かんざしまで、豊富に取り揃えております。舞台化粧品も、お気軽にご相談ください。

電 03-3841-8191 (第一店)、5523 (第二店) 7434 (第三店)  
住 台東区浅草1-28-3 (第一店)、1-31-1 (第二店) 2-3-1 (第三店)  
営 10:30~19:00 (第一店) 平日9:30~18:00、土日祝日9:30~19:00 (第二店) 9:30~18:00 (第三店)  
休 無休

<http://www.komachi-hair.co.jp/>

53 宮本卯之助商店本店 (吉野通り)

太鼓・神輿、祭礼用具 地図 P.15



文久元年(1861年)創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3873-4155  
住 台東区浅草6-1-15  
営 9:00~17:00  
休 土日祝日



<http://www.miyamoto-unosuke.co.jp>

54 株式会社製菓川喜多

菓子製造、販売 地図 P.15



弊社は戦後もなく川喜多忠之助により、おこし製造から始まりました。駅、高速SA等でおなじみの「東京サンド」等の問屋様への卸売販売、老舗様のOEM製造を中心としてきましたが、現在では「浅草の菓子屋」になりきろうと、「浅草川喜多」の名前の洋菓子の製造・販売に重点を置いております。工場直販です。

電 03-3875-0013  
住 台東区浅草5-56-4  
営 9:00~17:00  
休 日・祝日(土曜日不定休)



<http://www.s-kawakita.co.jp>

55 デイジー (新仲見世通り)

バッグ、小物 地図 P.16・C1



魅力的な貴女をより輝かせるバックと小物。デイジーはそんな貴女にピッタリ!カラフルな品揃えで心までウキウキ間違いナシです。オリジナル品を中心としたオサイフや札入も個性的な貴女にピッタリ!特注・別注・修理も大歓迎です。

電 03-3847-8118 (FAX共通)  
住 台東区浅草1-22-10  
営 10:00~19:30  
休 不定休 2ヶ月に1回ほど



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/deiji.html>

56 渡辺眼鏡商店 (ためき通り)

めがね 地図 P.16・C1



創業明治20年の眼鏡専門店です。オリジナルフレーム、アンティークフレーム、眼鏡ケース、眼鏡チェーンなど他所には無いものをお探しの方はちょっと覗いてみて下さい。眼鏡修理も承っております。

電 03-3841-7466  
住 台東区浅草1-16-7  
営 09:30~19:00  
休 火曜日(祝日の場合は営業)



<http://www.watanabemegane.com>

57 すずや (西参道商店街)

演劇、舞踊小道具 地図 P.16・C2



時代劇や踊りに興味のある方、いろいろな小道具が並んでいます。近くにお出かけの時にはお気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3844-3798  
住 台東区浅草2-7-13  
営 10:00~18:00  
休 火曜日



<http://www.asakusasuzuya.co.jp/>

58 めうがや (言問通り)

足袋、祭用品 地図 P.16・C3



“めうがや”と書いて「みょうがや」。旧仮名で“どぜう”を「どじょう」と読むのと同じです。夏に麻足袋、柄足袋も多種揃っています。お祭には、オリジナルの祭用品で粋にキメて下さい。

電 03-3841-6440  
住 台東区浅草2-27-12  
営 10:00~19:00  
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/myogaya>

59 宮本卯之助商店西浅草店 (国際通り)

太鼓・神輿、祭礼用具 地図 P.16・B1



文久元年(1861年)創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3844-2141  
住 台東区西浅草2-1-1  
営 9:00~18:00  
休 年中無休



<http://www.miyamoto-unosuke.co.jp/>



60 ヤマダの家具 (合羽橋通り)

家具・内装工事・リフォーム 地図 P.16・A2



飲食店のイス・テーブルの製造販売と内装工事を承っております。最近ではイスの張替、リフォーム工事等、大変好評です。お見積りはもちろん無料ですので、大小にかかわらずどうぞご相談ください。

電 03-3843-6656  
住 台東区松が谷3-2-12  
営 9:00~17:30  
休 日曜・祝日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/yamada>

61 今昔きもの 龍巳(胡蝶) (オレンジ通り・伝法院通り角)

着物 地図 P.16・C2



胡蝶では、大正・昭和のアンティーク着物から、最近のリサイクル着物・帯などを格安にて販売しております。また、本店・龍巳にて、日本舞踊の貸衣装・かつらのレンタルも承ります。

電 03-3843-7606  
住 台東区浅草1-39-11  
営 10:30~19:00  
休 無休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kocho.html>

62 まつもと履物店 (浅草ひさご通り)

和装履物専門店 地図 P.16・B3



自店で仕上げた草履、下駄、雪駄等を商う和装履物専門店。1899(明治32)年、浅草千束町二丁目にて創業。代々継承される職人技術と徹底した品質管理を経た、(株)まつもと履物店の和装履物をぜひ一度、お試しください。

電 03-3841-2461  
住 台東区浅草2-22-11  
営 11:00~18:30  
休 火曜日



<http://www.wasou-hakimono.com/>

63 龍昇亭西むら (雷門通り)

和菓子司 地図 P.17・C2



看板の栗も羊かんはもちろん、大桃山金龍、東京かすていら、昇り鮎など浅草の催事と、季節に因んだ品々は大人気です。創業は江戸中期と古く、安藤広重の「雷門前図」にもお店が描かれています。

電 03-3841-0665  
住 台東区雷門2-18-11  
営 09:00~20:00  
休 不定休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/nishimura.html>

64 市川とうふ店 (万太郎横町)

豆腐 地図 P.17・B2



浅草の老舗飲食店への卸を中心に、国産大豆にこだわり手作り豆腐一筋三代にわたるお店です。店頭での販売ではなくに“おぼろ豆腐”が人気です。水にまったくさらさない、大豆風味豊かな味を一度御賞味下さい。

電 03-3841-1357  
住 台東区雷門1-14-3  
営 5:00~19:00  
13:00~16:00は休憩  
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/tofu.html>

65 宗舟 (浅草消防署手前右入る)

木彫刻 地図 P.17・B2



初代より百年以上にわたり社寺、仏像、置物などの木彫刻を専門に手掛けてきました。一階はギャラリーで、大黒様や聖観音菩薩など仏彫刻、根付け、小盆なども展示しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3845-0458  
住 台東区寿4-12-2  
営 10:00~17:00  
休 日曜日・祝日



<http://so-syu.jp>

66 宝研堂 (江戸通り駒形とせう裏)

書道用品専門店 地図 P.17・B2



ご愛用の硯を研ぎ直し目立てをします。面を整地し直し厳選された砥石をかけ、仕上げに丸一日かけます。これを行うのと行わないのでは、使用感、見た目にも驚くほどの違いが出ます。是非一度お試しください。

電 03-3844-2976  
住 台東区寿4-1-11  
営 平日9:00~18:00  
第1・3日曜10:00~17:00  
休 第2・4・5日曜、祝日



<http://houkendo.co.jp>

67 グリーンジャケット

こだわりのゴルフ用品 地図 P.17・B1



梅雨時のゴルフの必需品!夏場や雨のゴルフでグリップが滑りませんか?ゴリラゴールドが滑りを全て解決します。(全国販売店募集中)他所で見られないゴルフグッズをいろいろ揃えています。

電 03-3847-0871  
住 台東区浅草3-12-5  
ロワール浅草寿201号  
営 10:00~18:00  
休 日曜日・祝日



<http://www.green-jacket.co.jp/>

68 村石電気工事 (仲見世会館そば)

電気工事業 地図 P.14・B2



右の写真は当社が電気工事をした、汐留シティーセンタービル41階のFISHBANK(フランス料理店)です。このような工事を手がけ、また特殊ランプ等も販売しています。是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3845-2345  
住 台東区浅草1-32-9  
営 08:00~17:00  
休 日曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/muraishi.html>

69 ホテルサンルート浅草 (田原町駅前・国際通り沿い)

ホテル業 地図 P.17・A2



田原町駅から徒歩1分!特に出張のお客様には、気取らず、それでいて質の高いサポートを第一に考えております。また、お食事とお飲み物は24時間“jonathan's”が提供致します。装い新たになったお部屋を是非お試しください。

電 03-3847-1511  
住 台東区雷門1-8-5  
営 チェックイン14:00  
チェックアウト11:00  
休 無休



<http://www.sunroute-asakusa.co.jp/>

70 浅草ビューホテル

ホテル業 地図 P.16・B2



江戸情緒を色濃く残す「浅草」。東京の新たなシンボル「東京スカイツリー」を目の前に、ますます活気に満ち溢れる「浅草」で気取らぬあなたにかいおもてなしで国内外のお客様をお迎えいたします。

電 03-3847-1111 (代表)  
住 台東区西浅草3-17-1  
営 チェックイン15:00  
チェックアウト12:00



\*予約の宿泊プランにより異なる場合があります。

休 無休 <https://www.viewhotels.co.jp/asakusa/>



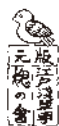
## 御神木「槐」の木の由来(ごしんぼく「えんじゅ」)

槐は中国原産の豆科の落葉高木で、高さは10mにもなります。初夏黄白色の蝶形の花を付け、中国では記念樹として植えられますが、日本では街路樹などにも多く植えられています。浅草寺境内の槐の木は、枯れては生えているので絶えることがないそうです。浅草寺のご本尊の聖観音菩薩は推古天皇の頃、漁師であった檜前浜成・竹成兄弟により網得されて川辺の槐の木の切株に安置されましたが、土師仲知が自宅内に堂を設けて観音様をお祭りしたのが浅草寺の起りだと伝えられています。また、仲知達の子孫が3人を神様としてお祭りしたのが三社権現社です。



## 槐の会からのお知らせ

浅草槐の会(あさくさえんじゅのかい)は、浅草寺のご本尊の聖観世音菩薩が、推古天皇36年(628年)3月18日、隅田川で示現され、槐の木の切り株(現在の駒形堂あたり)に安置されたといういわれから“浅草槐の会”と称しました。浅草槐の会では、楽しい浅草情報を、ホームページ、瓦版、などで紹介いたしております。また、四季折々の浅草を自由に、楽しく散策していただきたく、地図、歳時、名所、旧跡を中心に編さんした『日本の扉浅草』を刊行いたしております。この冊子が、皆様の浅草散策のお役に立てば幸いです。



えんじゅ  
浅草槐の會事務局

※この冊子は、槐の会会員店舗にて無料配付しております。

## 浅草文化観光センター



台東区浅草文化観光センターは、浅草寺を中心とする浅草の文化的遺産の保護・再発見に努めるとともに、広く全国に紹介するための施設。浅草の持つ特有の庶民文化や行事等の故事来歴などを紹介している。2012年4月20日(金)にリニューアルオープンしました。

開館時間午前9:00～午後8:00(年中無休)

## 台東区観光ボランティアガイド

台東区では、観光に来られた方の案内役として「観光ボランティアガイド」制度を設けています。利用できる人数は、2～3名の小グループから団体まで幅広く、「浅草寺を中心とした思わぬ発見コース」など、さまざまなご相談に応じてコースを設定してご案内しています。台東区観光ボランティアガイドに関する詳しいお問い合わせ、お申し込みは次のところまで。

### 台東区観光ボランティアガイド事務局

- TEL:03-3842-5599 FAX:03-6673-3046
- ホームページ <http://www.taitouboragai.com>

